

2023年5月15日
日本ガス協会

日本ガス協会 本荘会長 会見発言要旨

1. G7 札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合

札幌での大臣会合に先立ち、日本ガス協会は定期航空協会と連名で、e-methaneをはじめとするカーボンリサイクル燃料の社会実装に向けた提言書をまとめ、西村環境大臣および里見経済産業大臣政務官へ提出した。

提言書では、「カーボンリサイクル燃料に対する正しい認識の醸成」と「燃焼時に発生するCO₂の取扱いに関する国際的なルール整備の加速」の必要性等について要望した。

大臣会合における共同宣言では「カーボンマネジメント」の項目が追加され、e-methaneに関する記載が織り込まれた他、国際的なCO₂カウンtrルール整備の重要性や、カーボンリサイクル燃料を活用することで既存インフラを有効に活用しながらCO₂削減に貢献できる点などが明記された。

CO₂の排出削減対策が伴わない化石燃料のフェーズアウトや、脱炭素燃料に対するコスト支援の重要性などについても宣言に織り込まれた。

また、「天然ガスとLNG」の項目が追加され、天然ガスへの今後の投資の考え方についても、「市場への供給不足を解消するのに適切」と明記され、心強く感じている。

共同宣言の内容は、ガス業界がこれまで提言してきた内容が各国にも受け止められたものと認識しており、e-methaneの社会実装に向けて大き

な前進であると感じている。

なお、共同宣言のとりまとめにあたっては、各国より様々な意見が出される中、ご尽力いただいた関係者の皆さまに感謝申しあげたい。

2. カーボンリサイクル燃料に係る EU の動向

EU のガス市場においても脱炭素化の実現にむけて同燃料に関する具体的なルールの整備が進んでおり、燃焼時の排出 CO₂ をゼロとみなすような考え方が採用されている。

自動車業界においても、合成燃料を利用する内燃機関車の販売が 2035 年以降も認められるなど、カーボンリサイクル燃料の環境性が評価されている。

今後、日本においても同燃料の環境性の評価が向上していくものと期待している。

以上